



資料1

生物多様性ふくおか戦略の 素案について



目次

1. 前回会議のご意見と対応方針
2. 戦略素案の全体像
3. 基本的方向ごとの基本施策、指標、取組み例
4. スケジュール

1. 前回会議のご意見と対応方針



	委員からのご意見	対応
戦略に盛り込むべき視点	新興感染症が自然に与える影響など、人と自然の関わりにおける生物多様性はどうかを戦略に示してもらいたい。	<p>【素案P9、P21】 新型コロナウイルス感染症の世界的流行を契機に認識された生物多様性の損失と社会の関係性について触れるほか、新興感染症の拡大など人間活動による生態系への影響について言及</p>
	森林を壊さずに針広混交を推進していくことが日本全体で課題となっている。地域材を活用しながらどう森林を守っていくのかを戦略の中でも触れられるとよい。	<p>【素案P43】 「基本的方向3」において参考指標として「スギ・ヒノキ人工林の広葉樹等への植替え面積」を追加</p>
基本的方向1～3の繋がり	基本的方向1～3の繋がりが見えず、ばらばらの印象を受ける。全体の中で基本的方向1～3の有機的な繋がりを見せることで、目指すべき将来像のイメージを共有できないか。	<p>【素案P29】 読む人にわかりやすいよう、基本的方向3が基本的方向1、2の達成に向けた横断的な取組みであるという位置づけを明記</p>
	戦略体系を見ると、成果指標や取組み例も基本的方向1、2が充実していて、そのぶん基本的方向3が手薄に見える。1、2、3をうまく繋ぐとより充実する。	<p>【素案P42】 基本的方向3に、新たな成果指標を追加し、より多面的に評価できるように修正</p>
	本骨子案では、基本的方向1、2は自然を守るための施策で、基本的方向3が1、2と相反するように見える。	

1. 前回会議のご意見と対応方針



	委員からのご意見	対応
基本施策と取組み例	<p>生物多様性の浸透のために第一にやるべきことは、市民にデータをわかりやすく提示することである。希少種や代表種だけでなく、幅広い生物種のデータを客観的にわかりやすく提示してもらいたい。</p>	<p>【素案P35】 自然環境調査や市民参加型モニタリング調査などのデータを「生物多様性ふくおかセンター」に集約し、市民に分かりやすく、使いやすい形で提供することを明記</p> <p>【素案記載外の対応】 (素案記載外の対応として)個別で要望があった場合には、必要に応じて調査結果やGISデータを提供。</p>
	<p>基本的方向1の基本施策「企業における生物多様性への配慮」については、企業に特定せず、教育機関等幅広い連携先を視野に入れるとよい。</p>	<p>教育機関との連携については、「基本的方向1(1)(2)」において記載していることから、(3)については企業との連携について記載</p> <p>【変更なし】</p>
	<p>市民モニタリングについて、市民参加で行うことは良いが、市民の興味や得意分野は様々で、モニタリングに偏りがでる可能性がある。バランスよく、多様な調査が行われていることがわかるとよい。</p>	<p>【素案P35、P36】 「ふくおかいきもの調査隊」等の調査に触れつつ、市民参加型調査以外にも関係機関と連携のうえ調査・モニタリングを行っていく旨を明記</p> <p>【素案P17】 「市民科学」に関するコラムを掲載</p>
	<p>市内で緑化を行う際に、植物種の選択等において他の生きものにどのように影響するかを考慮しながら進めてもらえるとよい。</p>	<p>【素案P39、P40】 「基本的方向2(1)」において、生物多様性に配慮した緑化推進の取組みについて記載</p>

1. 前回会議のご意見と対応方針



	委員からのご意見	対応
評価方法、指標の設定	<p>基本的方向2について、博多湾海域における魚種数の指標が設定されているが、種数は変化しなくとも種が入れ替わる可能性がある。そういった質的な変化を評価してほしい。</p>	<p>「博多湾環境保全計画」において評価しており、同評価を毎年の進捗管理にて参照</p>
	<p>指標案「環境に配慮した活動を行う企業が増えていると思う市民の割合」について、市民に見えにくい企業の活動を評価できる指標も検討すべきである。</p> <p>また、参考指標「生物多様性の意味を理解し、その保全につながる行動をしている市民の割合」は、企業の生物多様性への配慮の推進に対応する指標としてつながりが見えづらい。</p>	<p>【素案P31、P33】 成果指標「環境配慮型事業所の認定企業数」を追加</p> <p>【素案P34】 参考指標を「生物多様性ふくおかセンターにおける各主体の取組み掲載数」に変更</p>
	<p>施策体系に記載されている成果指標のうち、あたまが「○」のもの「・」のものがある。注釈等で別を明記する必要がある。</p>	<p>【素案P31、P33、P37、P42】 「福岡市環境基本計画(第四次)」で採用されている指標である旨を明記</p>

1. 前回会議のご意見と対応方針



	委員からのご意見		対応
評価方法、指標の設定	<p>成果指標、参考指標の「現状維持」が目につく。増やす目標を掲げたり、具体的な数値目標があるとよいのではないか。</p>	➡	<p>以下指標について目標値を見直し</p> <p>【素案P34】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境総合学習の実施校割合」: 増加 ・「市と大学・NPO等が連携して実施した生物多様性に関する調査・研究の実施状況」: 33件(累計) <p>【素案P37】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「耕作放棄地面積」: 減少 ・「市内5河川のASPT値」: 増加 ・「特定外来生物の定着種数」: 減少
	<p>「現状維持」という文言が多く目につく。具体的な情報が加味できるとよい。</p>	➡	<p>【素案P38】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市内水源かん養林整備面積」: 36ha ・「アライグマの目撃報告数」: 減少 ・「カブトガニ産卵数、幼生数、成体・亜成体個体数」: 増加 <p>【素案P42】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性ふくおかセンター等を介したマッチング申込件数」: 60件(累計) ・「市公共施設の木材使用量における地域産木材利用割合」: 増加 ・「室見川河口干潟のアサリ推定資源量」: 増加 ・「学校給食への市内産農水産物利用割合(野菜)」: 増加 <p>【素案P43】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「室見川水系一斉清掃参加申込者数」: 4,000人 ・「ラブアースクリーンアップ参加人数」: 44,000人 <p>「博多湾海域における魚種数」「藻場の面積」は他計画からの引用であり、「現状維持」から修正なし</p>

2.戦略素案の全体像



第1章 戦略の基本的事項

- 生物多様性ふくおか戦略の改定
- 戦略の位置づけ
- 対象地域と戦略の期間
- 戦略改定のポイント
- 戦略の構成

第2章 生物多様性に関する現状と課題

- 上位計画の概要
- 国内外の動向
- 福岡市の生物多様性を取り巻く状況
- 福岡市の生物多様性に係る変化と課題

第3章 戦略の目指すべき姿・方向性

■ 目指す将来像

自然の恵みに感謝し、未来へ受け継ぎ、
人と自然が調和した持続可能な暮らしを営む都市ふくおか

■ 施策体系

■ 基本的方向と基本施策

基本的方向1 「知る・学ぶ」

基本的方向2 「守る・増やす」

基本的方向3 「活かす・つなぐ」

第4章 基本施策の展開

- 基本的方向1「知る・学ぶ」ビジョン、指標、主な施策(取組み例)
- 基本的方向2「守る・増やす」ビジョン、指標、主な施策(取組み例)
- 基本的方向3「活かす・つなぐ」ビジョン、指標、主な施策(取組み例)

本日ご意見を
いただきたい論点

第5章 推進体制・進行管理

- 各主体の役割
- 推進体制
- 進行管理



基本的方向1 生物多様性の保全の重要性について「知る・学ぶ」

基本施策(1)生物多様性の重要性の社会への浸透

生物多様性がもたらす豊かな恵みを将来にわたって享受するために、市民が生物多様性を理解し、その保全の重要性を認識し、行動できるよう、広く社会に浸透させます。

指標

成果指標	現状値	目標値
生物多様性の意味を理解し、その保全につながる行動をしている市民の割合 <代表指標>	28.2% (令和6年度)	50% (令和17年度)

※代表指標:基本的方向1における各取組みの最終的な成果を最もよく表すと考えられる指標

参考指標	現状値	目標値
環境総合学習の実施校割合	81.9% (令和6年度)	増加 (令和17年度)
「ふくおかレンジャー」受講者数	219人(累計) (令和6年度)	370人(累計) (令和17年度)
「自然の恵み体験」申込者数	434人 (令和7年度)	800人 (令和17年度)



基本的方向1 生物多様性の保全の重要性について「知る・学ぶ」

基本施策(1)生物多様性の重要性の社会への浸透

取り組み例

多彩な市民参加型イベントの開催

- 福岡市にある様々な自然環境を活用したネイチャーツアーを実施し、森、里、川、海の役割やつながりの大切さを学び体験できる機会を提供します。
- 生物多様性ふくおかセンター内のコンテンツ「ふくおかいきものマップ」と連動した市民参加型の生きもの調査「ふくおかいきもの調査隊」を継続して実施します。
- クロツラヘラサギやツクシガモなどの希少種をはじめ多くの野鳥が飛来するエコパークゾーンの自然のすばらしさを市民に認識してもらえるよう、市民参加によるアマモ場づくりやアオサの回収活動を実施します。
- 都市住民のレクリエーションや学習の場の提供などを通して、農業の重要性や魅力など認識の共有を図り、市民への「農」に関する情報発信の充実に努めます。

環境教育プログラム・人材育成の拡充・充実

- 教育機関における環境教育プログラムの推進を通して、生物多様性の重要性の浸透を図ります。
- 地域の自然の大切さや楽しみ方を伝えることができる「ふくおかレンジャー」の育成を推進します。
- 自然や水の大切さについての広報活動などに努め、市民の節水意識の維持・高揚を図ります。

生物多様性ふくおかセンターの一新

- 福岡市の生物多様性を楽しく学べるウェブサイト「生物多様性ふくおかセンター」を生物多様性に係る情報発信の拠点として位置づけます。
- 生物多様性に関する情報の発信や、多様な主体間の連携・協力の斡旋を行うとともに、生物多様性を学べる機会の創出を図り、市民や企業などの行動変容を促進します。

エシカル消費の推進

- 生物多様性の保全に資する「エコラベル」付き製品や地産地消といった「エシカル消費」に関する普及啓発を行います。



3.基本的方向ごとの基本施策、指標、取組み例

基本的方向1 生物多様性の保全の重要性について「知る・学ぶ」

基本施策(2)生物多様性に関する調査やモニタリングの実施

市民や活動団体、企業などの参加により、市内に生息する生きものや自然環境に関する調査やモニタリングを行い、ふくおかの生物多様性への理解や問題意識を高めるとともに、保全などの活動に参加するきっかけをつくります。

指標

成果指標	現状値	目標値
市民参加型モニタリングの参加者数	258人 (令和6年度)	1,000人 (令和17年度)

参考指標	現状値	目標値
市と大学・NPO等が連携して実施した生物多様性に関する調査・研究の実施状況	2件(累計) (令和6年度)	33件(累計) (令和17年度)



基本的方向1 生物多様性の保全の重要性について「知る・学ぶ」

基本施策(2)生物多様性に関する調査やモニタリングの実施

取組み例

市民参加型モニタリングの実施

- 活動団体や教育機関と連携し、市内の生物種や自然環境に関するモニタリング調査を市民参加で実施します。
- 調査結果に対して市民が興味や関心を持てるように、生物多様性ふくおかセンターのウェブサイトなどにおいて、わかりやすく情報提供します。
- 生物多様性ふくおかセンター内のコンテンツ「ふくおかいきものマップ」と連動した市民参加型の生きもの調査「ふくおかいきもの調査隊」を継続して実施します。(再掲)

博多湾や河川の環境モニタリングの実施

- 博多湾沿岸の干潟や河川における環境変化を把握するため、定期的なモニタリング調査を実施します。

大学・活動団体等と連携した生物多様性に関する調査・研究の実施

- 関係団体や関係機関の協力により、自然環境に関する調査や情報収集・整理を継続して行います。
- 国や県・大学の研究機関、専門家、活動団体などと野生生物に関する情報の交換を行うとともに、市域内に飛来し、又は通過する貴重・希少な渡り鳥などの生息環境の保全を図ります。



基本的方向1 生物多様性の保全の重要性について「知る・学ぶ」

基本施策(3)企業における生物多様性への配慮の推進

ネイチャーポジティブ経済の実現を目指し、生物多様性を意識した事業活動の普及啓発や支援を通じて、企業をパートナーとした生物多様性保全を展開します。

市民一人ひとりの環境に対する意識を高め、自主的な環境配慮行動を支援・促進する効果的な情報発信・広報啓発等に取り組み、環境にやさしいライフスタイルへの転換を推進します。

指標

成果指標	現状値	目標値
環境に配慮した活動を行う企業が増えていると思う市民の割合	76.8% (令和6年度)	86.6% (令和17年度)
環境配慮型事業所の認定企業数	245社 (令和6年度)	275社 (令和15年度)

参考指標	現状値	目標値
生物多様性ふくおかセンターにおける各主体の取り組み掲載数	4件(累計) (令和6年度)	225件(累計) (令和17年度)



基本的方向1 生物多様性の保全の重要性について「知る・学ぶ」

基本施策(3)企業における生物多様性への配慮の推進

取組み例

生物多様性を意識した事業活動に関する普及啓発

- 生物多様性に配慮したサービスや、自然環境の保全活動など、生物多様性を意識した事業活動をホームページなどで紹介し、多くの企業の取組みを促進します。
- 企業が行う生物多様性保全活動に対し、専門家の派遣、情報や技術、活動団体などとのマッチング、市の広報媒体を活用したPRなどの支援を行い、活動の拡充を図ります。
- 生物多様性や天然資源へ配慮した環境経営を進める企業への支援を検討します。

エシカル消費の推進(再掲)

- 生物多様性の保全に資する「エコラベル」付き製品や地産地消といった「エシカル消費」に関する普及啓発を行います。

3.基本的方向ごとの基本施策、指標、取り組み例

基本的方向2 質と量の両面から福岡市の生物多様性を「守る・増やす」

基本施策(1)多様な生きものの生息・生育環境の保全・回復・創出

多様な主体と連携・共働して、生物多様性の保全・回復・創出に取り組みます。

指標

成果指標		現状値	目標値
全市域におけるみどりの面積		18,984ha (R6年度)	18,984ha以上 (R16年度)
耕作放棄地面積		321ha (R6年度)	減少 (R17年度)
市内5河川のASPT値*	室見川	7.0 (R4年度)	増加 (R17年度)
	樋井川	6.2 (R3年度)	
	那珂川	6.2 (R元年度)	
	御笠川	5.9 (R2年度)	
	多々良川	7.0 (R5年度)	
博多湾海域における魚種数		69種 (R6年度)	現状維持 (R17年度)

*ASPT値:水質評価において生物の多様性と水質の良好性を示す指標



基本的方向2 質と量の両面から福岡市の生物多様性を「守る・増やす」

基本施策(1)多様な生きものの生息・生育環境の保全・回復・創出

指標

参考指標		現状値	目標値
都心部の緑被面積		100ha (令和6年度)	102ha (令和16年度)
博多湾の水質の環境基準達成状況	COD	2/8地点	現状維持 (令和17年度)
	T-N(全窒素)	2/3海域	
	T-P(全リン)	全3海域	
市内水源かん養林整備面積		12ha (令和6年度)	36ha (令和10年度)
自然共生サイトの認定件数		0件(累計) (令和6年度)	5件(累計) (令和17年度)



基本的方向2 質と量の両面から福岡市の生物多様性を「守る・増やす」

基本施策(1)多様な生きものの生息・生育環境の保全・回復・創出

取り組み例①

山・里・川・海の保全

- 市民や活動団体などと連携し、貴重・希少種や身近な生きものの生息・生育環境の保全に取り組みます。
- 自然林の保護や森林の適正な管理などにより、多様な生物の生息・生育の場である森林環境の保全と適正な利用を推進します。
- 水源かん養林の整備や市民や企業などとの共働による水源かん養林の保全の取り組みを実施し、水資源の安定的な確保に努めます。
- 農地や森林の多面的機能を確保し、それを支える環境に配慮した農林業の振興を推進します。
- 河川整備や治水事業、ため池の整備などにおいて、生態系に配慮した自然共生型の水辺の整備を行います。
- 多自然川づくりにより、多様な生きものの生息環境や水質の保全などを図り、自然豊かな河川の形成に取り組みます。
- 和白や今津の貴重な干潟や前面浅海域の保全を図るとともに、海辺の生態系に配慮した養浜や藻場の造成などにより、干潟などが有する浄化機能の向上を図ります。
- 公共施設での雨水利用や雨水貯留タンク助成による普及促進などによる雨水の有効利用を促進します。
- 下水の高度処理や底質改善などの水質保全に取り組むとともに、生物多様性及び生物生産性が確保された豊かな海をめざし、栄養塩類の管理のあり方を検討します。
- 森林や農地、ため池など保水能力の高い地域の適正な維持管理を促進するなど、生態系が有する防災・減災機能を高める取り組みを推進します。
- 福岡市環境影響評価条例などにより、早期の計画段階などにおける環境影響評価を推進するとともに、環境影響評価に関する技術的指針や情報を整備するなど、適正な環境影響評価制度の運用を図ります。
- 開発事業などの構想・計画段階からの適切な環境配慮を助言するとともに、環境情報などの蓄積に基づく新たな知見や社会状況の変化に合わせて福岡市環境配慮指針を必要に応じて見直し、適切に運用します。



基本的方向2 質と量の両面から福岡市の生物多様性を「守る・増やす」

基本施策(1)多様な生きものの生息・生育環境の保全・回復・創出

取り組み例②

博多湾や河川の環境モニタリングの実施(再掲)

- 博多湾沿岸の干潟や河川における環境変化を把握するため、定期的なモニタリング調査を実施します。
- 河川の水質・流量の測定や公共水域の汚濁状況の把握とともに、生きものの生息環境を含めた総合的な水環境の把握、評価を行います。
- 博多湾における漁業振興による健全な物質循環を促進します。

屋上緑化、壁面緑化などの市街地の緑化推進

- 都市に残る緑地、河川などについて、特別緑地保全地区や都市施設としての緑地の指定などにより、適切な規模と配置による生きものの生息・生育地のネットワークの形成を図ります。
- 開発事業の実施に際して、質の高いみどりのネットワークの形成など、生物多様性に配慮した事業となるよう誘導策について検討します。
- 公園・緑地をはじめ、街路樹や特別緑地保全地区などの保全や創出を図るとともに、適正な維持管理などに取り組み、質の高いみどりを創出します。
- 公共施設において、憩いや安らぎが感じられるみどり空間を創出するとともに、多くの市民の目に触れる壁面なども活用しながら、民間建築物の先導となる緑化に取り組みます。
- 良好な都市景観の形成や都市環境の改善を図るため、市民や企業との共働により、都心部をはじめとして全市域における植樹運動を展開し、緑豊かなまちづくりの推進に取り組みます。
- 花と緑により、まちに彩りと潤いを与え、人のつながりや心の豊かさを生み出す「一人一花運動」の輪を広げ、花による共創のまちづくりを進めます。
- 身近な場所やまちなかで憩いや安らぎを感じられるように、集合住宅やベランダ、都心部のオフィスビルなどの緑化を助成し、民有地の緑化を促進し、市民や企業との共働により、緑あふれる魅力的なまちづくりに取り組みます。



基本的方向2 質と量の両面から福岡市の生物多様性を「守る・増やす」

基本施策(1)多様な生きものの生息・生育環境の保全・回復・創出

取り組み例③

守りたい種、場所の選定

- 福岡市に生息する生きものや、福岡市内の自然環境について、守りたい種や場所を市民とともに選定し、多様な主体と連携した保全の枠組みを検討します。
- ミツバチなど指標生物としての役割を果たす身近な生きものを通じて、生物多様性保全への理解と関心を高めます。

自然共生サイトの普及啓発、登録申請時の支援

- 30by30目標達成に向けて、自然共生サイトに関する普及啓発を行うとともに、企業などの登録申請を支援します。



基本的方向2 質と量の両面から福岡市の生物多様性を「守る・増やす」

基本施策(2)外来種による被害の防止

特定外来生物による生態系への影響低減を図るため、関係機関などと連携した情報発信や防除の実施などに取り組みます。

指標

成果指標	現状値	目標値
特定外来生物の定着種数	14種 (令和6年度)	減少 (令和17年度)

参考指標	現状値	目標値
アライグマの目撃報告数	146件 (令和6年度)	減少 (令和17年度)

取り組み例

外来種に関する情報発信、普及啓発

- 国や福岡県と連携し、特定外来生物の調査や防除に取り組みます。
- 市民への適切な情報発信を行い、特定外来生物による被害の未然防止を図ります。
- オオキンケイギクなどの外来植物を対象に、市民や事業者と連携し、年間を通じた計画的な駆除活動を推進します。



基本的方向2 質と量の両面から福岡市の生物多様性を「守る・増やす」

基本施策(3)ふくおかの貴重・希少種等の保全

個体数が減少し、絶滅の危機に瀕している種の保護や生息地などの保全に取り組みます。

指標

成果指標	現状値	目標値
貴重・希少生物等の確認種数 <代表指標>	255種 (令和5年度)	増加 (令和17年度)

※代表指標:基本的方向2における各取り組みの最終的な成果を最もよく表すと考えられる指標

参考指標	現状値	目標値
カブトガニ産卵数、幼生数、成体・亜成体の個体数	卵塊数33卵塊、 幼生数41個体、 亜成体個体数40個体、 成体個体数105個体 (令和6年度)	増加 (令和17年度)



基本的方向2 質と量の両面から福岡市の生物多様性を「守る・増やす」

基本施策(3)ふくおかの貴重・希少種等の保全

取り組み例

カブトガニなどの貴重種等に関連する干潟や河川などの生息・生育地の保全

- カブトガニ産卵場である今津干潟において、地域住民などと共働して干潟の保全に取り組むとともに、博多湾のカブトガニ生息数や生息範囲、生活史を把握するため標識調査などを実施します。
- 貴重種等の生態や保全の取り組みについて環境教育や普及啓発活動を実施します。

市民参加型モニタリングの実施(再掲)

- 活動団体や教育機関と連携し、市内の生物種や自然環境に関するモニタリング調査を市民参加で実施します。
- 調査結果を生物多様性ふくおかセンターのウェブサイトで公開し、広く市民に共有します。
- 生物多様性ふくおかセンター内のコンテンツ「ふくおかいきものマップ」と連動した市民参加型の生きもの調査「ふくおかいきもの調査隊」を継続して実施します。

3.基本的方向ごとの基本施策、指標、取組み例

基本的方向3 効率的な情報発信を展開しながら、 生物多様性の課題解決に向けて自然や多様な主体を「活かす・つなぐ」

基本施策(1)ふくおかの自然の恵みの活用

生物多様性がもたらす恵みを活かした衣食住や自然との触れ合いの体験などを通じて、生物多様性の重要性の認識を高め、保全活動などへの参加につなげます。

指標

成果指標	現状値	目標値
環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合(肯定的意見「そう思う」市民の割合)	51.5% (令和6年度)	72.0% (令和17年度)

参考指標	現状値	目標値
市公共施設の木材使用量における地域産木材利用割合	32.0% (令和6年度)	増加 (令和17年度)
室見川河口干潟のアサリ推定資源量	122.7トン (令和6年度)	増加 (令和17年度)
学校給食への市内産農水産物利用割合(野菜)	26.5% (令和6年度)	増加 (令和17年度)
背振少年自然の家、海の中道青少年海の家利用者数	73,645人 (令和6年度)	87,500人 (令和11年度)



基本的方向3 効率的な情報発信を展開しながら、 生物多様性の課題解決に向けて自然や多様な主体を「活かす・つなぐ」

基本施策(1)ふくおかの自然の恵みの活用

取り組み例①

地産地消の推進

- 新鮮で信頼される農産物の安定供給や、農地の保全・活用、環境への負荷軽減など、身近で安定した産地づくりを推進します。
- 市内産農水産物のブランド化や魅力発信などによる消費拡大に取り組むとともに、学校給食に積極的に使用するなど、市内産農水産物の地産地消を推進します。
- 地域産材(福岡市内及び県内で生育・伐採された木材)を活用した公共施設の整備を推進します。
- 地域の多様な自然資源の活用を推進し、生物多様性に配慮した地域づくりと地域の活性化を図ります。



基本的方向3 効率的な情報発信を展開しながら、 生物多様性の課題解決に向けて自然や多様な主体を「活かす・つなぐ」

基本施策(1)ふくおかの自然の恵みの活用

取り組み例②

ふくおかの自然を活用した自然体験活動の推進

- 福岡市にある様々な自然環境を活用したネイチャーツアーを実施し、森、里、川、海の役割やつながりの大切さを学び体験できる機会を提供します。(再掲)
- 背振少年自然の家や海の中道青少年海の家といった市有施設を活用した環境教育カリキュラムの充実を図ります。
- ふくおかの自然の魅力を満喫できる都市型エコツーリズムやグリーンツーリズムを推進します。
- 教育機関などにおいて、地域内の自然資源を活かした環境教育プログラムの導入・充実を図ります。
- 専門知識や技能を持った自然体験のリーダー的人材の育成・活用など、生物多様性に関する人材を育成します。
- 身近に自然とふれあえる場や環境学習の拠点、多様な生きものが生息する環境を創出するため、アイランドシティはばたき公園の整備を進めます。
- 都心部の貴重な海辺空間など、地区の特性を活かし、市民や来街者が楽しめる魅力あるウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)のまちづくりに取り組みます。
- 那珂川沿いの公園の再整備など、川に向かって開かれた、水辺を活かしたまちづくりの推進に向け、水辺の魅力づくりに取り組みます。



基本的方向3 効率的な情報発信を展開しながら、 生物多様性の課題解決に向けて自然や多様な主体を「活かす・つなぐ」

基本施策(2)多様な主体の連携の推進

多様な主体が連携・共働して福岡市の生物多様性の保全や環境学習等の活動を展開していけるよう、マッチングを支援するとともに交流の場や機会を創出します。

成果指標

成果指標	現状値	目標値
生物多様性ふくおかセンターなどを介したマッチング申込件数	2件(累計) (令和6年度)	60件(累計) (令和17年度)

取り組み例

生物多様性ふくおかセンター等における多様な主体の交流・マッチングの支援

- 市民、事業者、行政などの多様な主体が参加するシンポジウムや交流会の開催などにより、主体間のマッチングを支援します。
- 樹林地の保全・管理活動や公園緑地などの管理・運営等への市民・活動団体・企業等の参加を促進します。
- 市民・事業者が自発的・継続的に積極的な環境に配慮した行動を推進するための仕組みを構築します。
- 市民・企業・大学と連携した生物多様性の保全活動を促進します。
- 水源地域との交流、水源かん養林の整備支援などにより、水源地域と流域との連携を促進します。



基本的方向3 効率的な情報発信を展開しながら、 生物多様性の課題解決に向けて自然や多様な主体を「活かす・つなぐ」

基本施策(3)3分野(脱炭素・循環経済・生物多様性)の統合的推進

生物多様性と脱炭素、循環経済の3分野が関連する施策に取り組み、関係者の輪を広げながら、社会課題の解決につなげます。

指標

成果指標	現状値	目標値
藻場の面積	419.4ha (令和5年度)	現状維持 (令和17年度)
不法投棄回収量	9トン (令和6年度)	5トン (令和17年度)

参考指標	現状値	目標値
スギ・ヒノキ人工林の広葉樹等への植替え面積	17ha(累計) (令和6年度)	245ha(累計) (令和16年度)
室見川水系一斉清掃参加申込者数	3,445人 (令和6年度)	4,000人 (令和10年度)
ラブアースクリーンアップ参加人数	24,298人 (令和6年度)	44,000人 (令和17年度)



基本的方向3 効率的な情報発信を展開しながら、 生物多様性の課題解決に向けて自然や多様な主体を「活かす・つなぐ」

基本施策(3)3分野(脱炭素・循環経済・生物多様性)の統合的推進

取組み例

CO₂吸収量の多い森林や藻場の創造

- CO₂吸収の役割を担う森林を維持し、その働きを高める間伐などの適正管理を進めるとともに、創出されたクレジットを販売することで市の森林整備に活用します。
- 市民や漁業関係者、事業者などと連携・共働して、光合成によってCO₂を吸収し、海洋生態系に貯留する藻場の保全、再生に取り組みます。
- 各クレジット制度の取組みにより、企業と連携した脱炭素に向けた環境保全活動を推進します。

山・里・川・海の保全(再掲)

- 市民参加による海岸、河川等の清掃や環境美化活動を支援するとともに、地域の自然に愛着が持てるような啓発活動を進めます。
- 山や海・川等への不法投棄防止のため、パトロールや清掃、啓発活動を実施し、地域の自然環境の保全と市民の環境意識向上を推進します。
- 活動団体による里山保全の活動や、身近な自然環境の保全活動を支援します。
- 限りある水資源を有効に活用するため、配水調整システムによる効率的な水運用や漏水対策、下水処理水の利用などにより、節水型都市づくりを推進します。

4.スケジュール



生物多様性ふくおか戦略改定スケジュール

	2025(令和7)年度												2026(令和8)年度				
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
環境審議会							●	総会					●	総会			
環境審議会 環境保全・ 創造部会				●			●			●		●					
戦略改定 にむけた 作業	基礎調査、これまでの 基本的方向の評価			改定の方向性			骨子案の作成 専門家ヒアリング			素案の作成			原案の作成		パブリック コメント		成案の とりまとめ

改定戦略策定

	第1回	第2回	第3回	第4回
開催日	2025(令和7)年 8月18日	2025(令和7)年 11月5日	2026(令和8)年 2月4日	2026(令和8)年 4月(予定)
検討 事項等	○国内外動向、市の状況 ○戦略のふりかえり ○改定の方向性	○改定戦略の骨子案 ○将来像	○改定戦略の素案	○改定戦略の原案